

長野の林業

平成28年8月10日発行
長野の林業編集委員会

No.319

もくじ



特集

長野県林業総合センター研究成果発表会

口頭発表

- ・マツタケの発生と気象条件の変化……………2
- ・大臣認定を受けた信州型接着重ね梁……………3
- ・再造林コストを安くするために……………3
- ・主伐時の労働生産性の検証……………4

ポスター発表……………4

岐阜県でPR……………5

トピックス……………須坂市林道戸谷沢線開通……………6

森の元気情報……………里山活用推進リーダー育成事業…

佐久地方事務所／上伊那地方事務所……………7

トピックス……………^{みづれ}三浦実験林50年の歩み…中部森林管理局……………8

お知らせ……………第39回長野県児童・生徒木工工作コンクール……………9

県森連だより……………10

長野県の木材市況……………12



林業総合センターの研究成果発表会では、平成27年度に得られた研究成果が報告されました

第十回研究成果発表会開催される

長野県林業総合センターは、長野県の林業を発展させ、健全な森林整備を推進するために必要となる技術開発を行うとともに、得られた知識や技術の普及を図っています。

当センターで実施している研究については、毎年発行している業務報告や、研究課題が一段落した段階でまとめる研究報告などにより随時公表していますが、難しい専門用語などもあり書面による報告だけでは、わかりにくいとの指摘をいただきます。

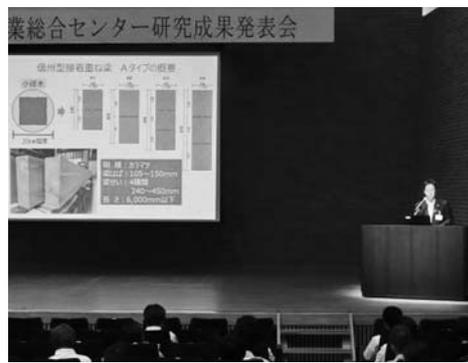
そこで、平成十七年度より、当センターで得られた研究成果を広く県民の皆様にお知らせするための研究成果発表会を開催しています。

第十回目となる今年度も、塩尻市のレザンホールを会場として、去る六月二十一日に開催し、県下各地から一五〇名を超える皆様にご参加いただきました。

今年度は、「充実しつつある資源の有効利用と更新技術の模索」と題し、平成二十七年度に得られた成果を、口頭発表とポスター発表でご報告させていただきました。

本号では、口頭発表を行った成果の概要とポスター発表の様子を紹介します。なお、当日発表した成果の一部は、岐阜県森林研究所の研究成果発表会でも報告しました。

【指導部】



口頭発表の様子

マツタケの発生と気象条件の変化 36年間の試験地での調査結果から

特産部 古川 仁

林業総合センターでは、県内六か所にマツタケ試験地を設定し、気温・地温(地下一〇cmの温度)・降水量・マツタケ収穫量等を調査しています。とりわけ、豊丘村試験地では三十六年分のデータの蓄積があります。

そこで、県単課題「地球温暖化に対応したマツタケ発生林施業法の開発」(H, 22-26)において、これらのデータ分析を試みました。その結果、次のような傾向が得られたので、林業総合センター研究成果発表会で報告しました。

図-1に示したように、年ごとにマツタケ初収穫日と最終収穫日を見ると、いずれも次第に遅くなる傾向がありました。また、初収穫日の遅れが、最終収穫日の遅れより大きく、結果として収穫期間が短くなっています。この傾向は最近になるほど大きく、近年の厳しい残暑の影響により、暑い時期が長引いていることが主な理由と思われる。

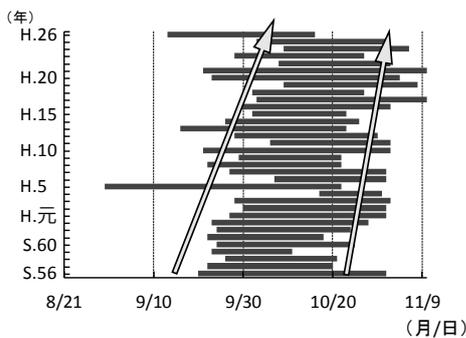


図-1 マツタケ収穫期間の変化 (豊丘村試験地)

このように地球温暖化の影響は、確実にマツタケの発生に現れています。これまで長野県のような寒冷地では、マツタケ山の環境整備法として、地温確保のために徹底した除伐を基本としてきました。しかし、以上の結果から、今後は状況に応じて適度に灌木を残し過度な地温上昇を防ぐことも必要と考え、今年三月に発行した改訂IV版「マツタケ増産のてびき」(長野県特産林産振興会)では、記載を変更しています。

国土交通大臣の認定を受けた 「信州型接着重ね梁」

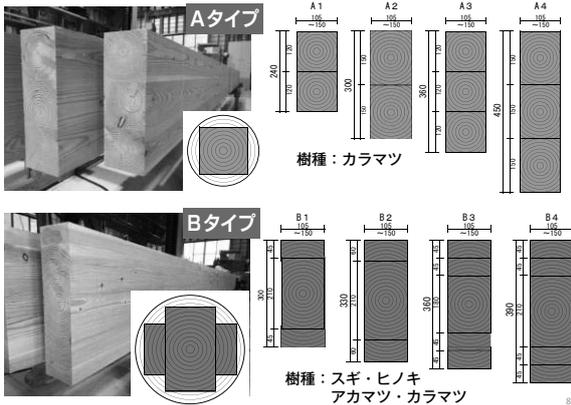
木材部 今井 信

在来工法住宅において、曲げ剛性が求められ、かつ断面の大きな横架材(梁・桁材)については、国産材の使用割合は一割に満たない状況です。

「信州型接着重ね梁」は、建築基準法第37条及び建設省告示第1446号により、「指定建築材料」としての大臣認定が必要でした。

長野県林業総合センターでは、一部試験について北海道立総合研究機構林産試験場の協力を得ながら、各種性能評価試験を行いました。今回の申請に当たっては予備試験を含め約二千体余の試験を実施することにより、材料性能を把握する具体的な方法を明らかにし、その性能を把握することができました。

今回の取り組みを活かし、今後も県産材利用促進・販路拡大のための材料開発に取り組みたいと考えています。



認定を受けたA及びBタイプ

再造林コストを安くするために コンテナ苗を活用した伐採・造林一貫作業の検討

育林地部 大矢 信次郎

各地の素材生産現場では、高密度・低コスト路網の整備や高性能林業機械の導入により、間伐作業の伐出効率の向上が図られ、生産性が向上してきています。一方で、皆伐・再造林作業においてもコスト削減技術の開発と実証が求められています。本研究では、再造林コストの低減に向け、皆伐から植栽までを一貫して行う「伐採・造林一貫作業」の各作業の生産性調査、コンテナ苗の特性評価等を行いました。

緩傾斜地における車両系作業システムによる伐採・造林一貫作業の生産性を明らかにするために、県内各地のカラマツ林において、一連の作業工程を調査しました。各皆伐作業地における伐出作業のシステム全体の労働生産性は、一五〜二四㎡/人日(図)、伐出コストは一六〇〇〜二七〇〇円/㎡(直接経費)となりました。

次に、造林作業の機械化を図るため、伐出用機械の活用を検討したところ、緩傾斜地ではグラップルローダ等による地拵え作業が可能であり、人力作業に比べて生産性は三〜九倍、コストは二二〜六五%に低減されました。また、コンテナ苗の運搬をフォワーダで行うことにより、植栽作業の効率化が図られました。

また、カラマツのコンテナ苗と裸苗(普通苗、大苗)の成長量を植栽後三年間にわたり比較したところ、コンテナ苗の成長量は植栽二年目以降急速に高まり、普通苗より有意に高い成長量を示しましたが、大苗には追いつきませんでした。コンテナ苗の植栽作業の生産性は裸苗より有意に高く、人件費の削減が図られました。しかし、苗木価格の差が影響し、植栽全体のコストは裸苗植栽に比べてコンテナ苗植栽の方が高くなりました。

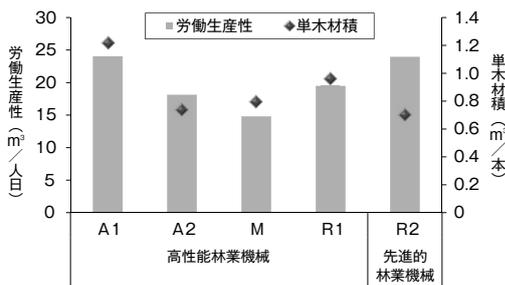


図 各試験地における皆伐作業の労働生産性と単木材積の関係
 ※A1・A2は浅間山国有林、Mは南牧県有林、R1・R2は霊仙寺山国有林
 ※「先進的林業機械」は北歐製のホイール式ハーベスタとフォワーダ

主伐時の労働生産性の検証

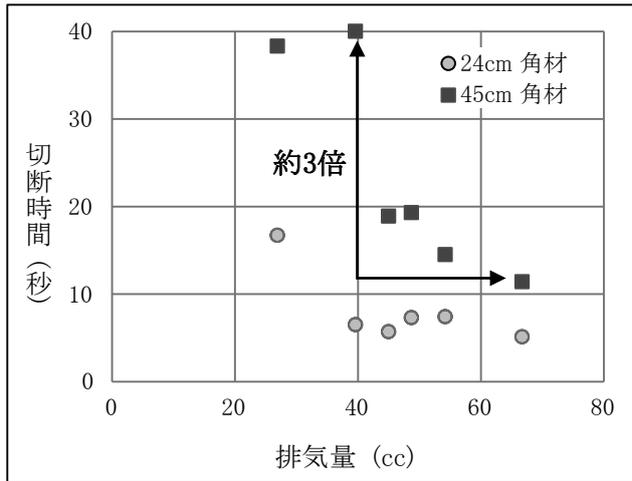
大排気量チェーンソーの能率は3倍速いか？

指導部 高野 毅

長野県内の人工林の資源が充実してきたことにより、これから皆伐による更新施業が増えてくることが予想されます。しかし、皆伐の労働生産性の資料が少ないため、功程調査を開始しました。その際に、現場から排気量の大きいチェーンソーを使用すると効率が3倍良いという声が聞かれたため、その検証として、チェーンソーによる切断試験を、切断材(角材)の幅を変えて行いました。

その結果24cmの角材の切断では排気量の差による作業効率の差は認められませんでした。45cmの角材の切断では、排気量が大きく、排気量に応じた適正な長さのガイドバーのチェーンソーを使った方が効率は約3倍良いことがわかりました。

しかし、皆伐作業全体にかかる労働生産性については、引き続き調査を実施していく予定にしております。



ポスター発表

今年度の発表会では、研究員全員が成果を発表することを念頭に、口頭発表の対象とならなかつた研究成果について、ポスターでの発表を行いました。

ポスター発表では、自らが作成したポスターの前に執筆者が立ち、発表内容の説明を行いながら、来場者との意見交換をしました。



ポスター展示発表の状況

今回は、佐久地方事務所林務課と、県を越えた交流を進めている岐阜県森林研究所の成果も展示・報告されており、参加者からは、「直接話が聞けることで内容への理解が深まった」とか、「常設展示をして欲しい」との積極的なご意見をいただきました。今回発表したポスター発表の題名と発表者は以下のとおりです。

指導部

- ◆ 架線集材の労働生産性は？ 宮崎 隆幸
- ◆ アイスブライス加工の強度について 間島 達哉
- ◆ 森林・林業セミナーにおける後継者教育 小山 泰弘

育林部

- ◆ 松くい虫被害の拡大状況の見える化 柳澤 賢一
- ◆ 高齢級のク리를主とした林分の萌芽枝の消長と実生の発生 清水 香代ら
- ◆ バケツで簡単 雨量計 戸田堅一郎

■特産部

- ◇木質資源を利用したきのこ遺伝資源の維持管理方法の開発
特産部・長野県農村工業研究所
- ◇林地でのマツタケ人工栽培を目指した研究〜自然感染苗〜
特産部・信州大学農学部
- ◇林地でのマツタケ人工栽培を目指した研究〜無菌感染苗〜
古川 仁
- ◇原木シイタケ栽培の革新的な省力栽培技術の開発
片桐 一弘
- ◇有効積算温度を活用した原木シイタケ栽培について
加藤 健一

■木材部

- ◇カラマツ乾燥材生産技術の開発
吉田 孝久
- ◇カラマツ角口グ材の乾燥試験
山岸 信也
- ◇木製品は野外で何年ぐらい使用できるのか?
奥原 祐司

■佐久地方事務所

- ◇佐久地域の更新施業の取組み
山口知裕・泉川寛子

■岐阜県森林研究所

- ◇岐阜県における低コスト再造林研究の取組み
茂木 靖和ら
- ◇列状間伐から一年経過したヒノキ人工林における高木性樹種の更新状況
片桐 奈々ら

今回提示したポスターは、林業総合センターにある森林学習展示館で、研究部ごとに月替わりで展示しています。興味のある方は、ご覧いただければ幸いです。なお、研究成果発表会の発表課題、要旨等は当センターホームページ (<http://www.pref.nagano.lg.jp/ringyosogo/seika/happyoukai.html>) で公開していますので、併せてご覧ください。

【指導部】

岐阜県森林研究所研究成果発表会で

「接着重ね梁」をPR

林業総合センターでは平成二十二年度から、岐阜県森林研究所との間で共同調査を行うなど、連携をすすめています。その一環として、「岐阜県森林研究所研究成果発表会」において、当センターからもポスター発表を行っています。

岐阜県森林研究所では昨年度から研究成果発表会を開催しており、今年も、七月十三日に岐阜県美濃市にある県中濃総合庁舎で行われました。当センターからは「信州型接着重ね梁」「高齢級のクリの萌芽状況」「松くい虫被害拡大の見える化」「バケツを利用した雨量計測」の四課題についてポスター発表を行い、長野県の研究成果をPRしてきました。

特に「信州型接着重ね梁」については、岐阜県の木材業界関係者から「岐阜県産のスギ材で信州型接着重ね梁を」との声が聞かれ、今後の業界間での連携が期待されるところです。



会場風景



接着重ね梁の説明

【指導部】

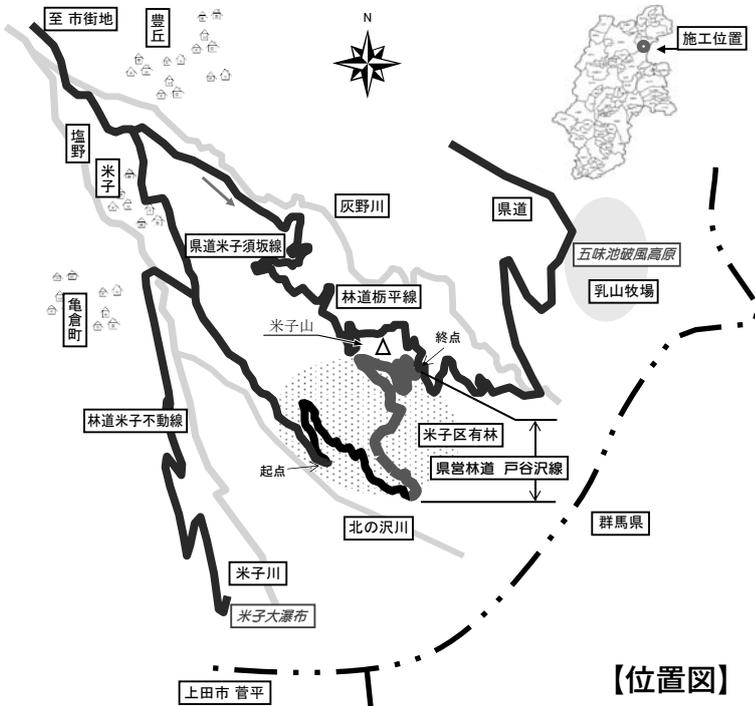
県営林道開設事業

林道戸谷沢線(須坂市)が開通しました

林道戸谷沢線は須坂市東部に位置し、米子山周辺における間伐等の森林施業の効率化と促進を図り、森林の持つ多面的な機能の増進を図ることを目的として、林道栃平線(全幅員4.0m、延長11,301m)と米子川沿いの県道米子須坂線を連絡する森林管理道です。

利用区域は、912ha(内国有林614ha、民有林238ha、民有林の内針葉樹204ha、広葉樹34ha)で、区域内は水源涵養保安林と土砂流出防備保安林で保安林率は約92%となります。

当林道は、平成3年に林道栃平線が開通したことを契機に、地元である須坂市米子区、塩野区、豊丘財産区により「林道栃平線戸谷沢線期成同盟会」が設立されました。その後毎



【位置図】

年総会と役員による現地視察会を行い、地元を交えて工事状況の確認と早期完成を目指しました。

工事は平成4年に県営林道開設事業で着手し、須坂市より30%の負担金と国県の補助金等を活用し、着手から23年を経て、平成26年12月、全幅員4.0m、延長4,502m、事業費9億7千万円をかけて竣工しました。

現在は「愛する会」として、地区ごとで沿線の草刈りや維持管理等の管理が行われています。

自然環境も豊かで、秋の紅葉時期にはスギ、カラマツを主体とした森林と広葉樹林による濃淡と色彩の豊かさを見出し、カーブを抜けるとニホンカモシカやイノシシと目を合やす機会も多く、稀にクマの親子にも行き会います。

須坂市では、四阿火山の影響の熱水鉱床や戦前に硫黄等の鉱山開発もあり、酸性を示す河川が多くあります。戸谷沢線起点側の北の沢川や終点側の豊岡ダムのある灰野川等はその影響がないことから重要な水源林となっています。

平成10年には保安林整備として作業道も整備され、水源の森・木材生産の場として将来に続く森林づくりが行われています。

最後に、現在放映中のNHK大河ドラマ「真田丸」でのオープニングに、米子大瀑布(日本の滝百選)の場面が映されています。ここには隣接の林道米子不動線の終点位置から徒歩約30分で見事な滝が見られます。また、途中でこの林道戸谷沢線の線形も見られますので、ぜひ訪れてみてください。

【長野地方事務所】



開通した最終工区

広葉樹の伐採を安全に

— 今後の活動をより安全にするために —

佐久林業士会で、地元で炭焼きをしている佐久穂町特用林産物生産者組合さんを対象に当事業に取り組みましたのでご紹介します。

まず、チェーンソーの安全講習会を開催しました。組合員二十名ほどが参加してくれました。枝が張り木の重心が分かりにくい広葉樹の伐採はかかり木になることも多く、適切な方法による安全な処理が必要になります。通常林業従事者でなければ保有していないフェリングレバーやチルホールなどの専門器具でなくとも、現場にある丸太とロープ等のありあわせの資材で安全な木処理ができることを林業士が実践を交えながら指導しました。チェーンソーのメンテナンスについては、林業機械修理販売店を営む林業士が専門的な立場で説明しました。目立てのポイントや正しい目立てをすることによって作業の効率上がること、またそれが安全に作業することにもつながることを指導しました。現場で目立てを行う場合に丸太に切り込みを入れチェーンソーを固定する方法などは組合員から感嘆の声が挙がっていました。若い林業士にとっては親子以上に年の離れた組合員の方に指導するのは緊張したようですが、現場ではたくさん質問が飛び交い、林業士の説明を真剣に聞く姿が見られました。パンフレットの作成、先進地への視察研修などもおこない来年度の活動につながる取組みとなりました。

【佐久地方事務所】



安全講習会：若い林業士が丁寧に説明

中川村でチェーンソー講習会

— 先祖の山を自分たちの手で —

平成二十七年十一月七日（土）と平成二十八年二月二十八日（日）の二回にわたり、地域の里山整備のリーダー育成を目指して、中川村でチェーンソー講習会が開催されました。上伊那林業士会の林業士が講師を務め、二十代から七十代の述べ二十七人の方が参加。参加者からは、かゆいところに手が届く丁寧な指導、と好評でした。

一回目の講習会は基礎編として「チェーンソーのメンテナンス」がテーマ。十年以上掃除をしたことのないチェーンソーをお持ちだった参加者さんも、目立てのノウハウをバッチリ体得され、切れ味抜群の自慢のマシーンに大変身！目立ての後は、上伊那林業士会副会長の芳賀二三雄さん率いる伊那市長谷「溝口里山創り隊」の活動紹介。これは、地域住民の手で森林整備をして、地域で材を利用されている活動で、隊結成のいきさつや活動運営の秘訣を伝授していただき、参加者の皆様は興味津々。普段、どうやって伐った木を運び出しているのか、実際にロープウインチを使って実演もしていただきました。

二回目の講習会では、初級・中級・上級・前回からの受講者の四班に分けて、一人一人の経験レベルや伐木技術にあわせた、きめ細かく手厚い指導がされていました。

「受講を機に山に入るようになった」、「伐採仲間ができた」という声や、「講師の林業士さんたちが俳優みたいでカッコいい！先祖の山を引き継いで自分の手で整備したい！」と目を輝かせる若者の姿もありました。地域の森林に目を向け始めた人々の輪が、着実に広がっていくことを実感しました。

【上伊那地方事務所】



熱の入った指導が好評！

みうれ

「三浦実験林」五十周年の歩み

中部森林管理局

木曾郡王滝村内にある「三浦実験林」は昨年で、実験林設定から五十周年を迎えました。

「三浦実験林」は、古くから木曾ヒノキの産地として知られている「三浦国有林」内にあり、冷涼多雨な気候であるため、湿性ポドゾル等のせき悪な土壌が分布し、また、その多くの地域が2mを超えるササに覆われ、以前から更新が難しいところでした。これに加え、昭和三十四年の伊勢湾台風、三十六年の第二室戸台風の襲来により、三浦国有林の木曾ヒノキ林に大量の風倒被害が発生し、本地域における森林の再生は当時深刻な問題となり、この事態を打開するため、昭和四十一年に当時の長野営林局が三浦実験林を設定し、事業的な規模の各種試験地を設定しました。

設定から五十周年を迎えた「三浦実験林」のこれまでの研究成果について、関係機関・市町村や研究機関、地元関係者等に広く紹介するため、「三浦実験林五十年史」木曾ヒノキ林の永続に向けた天然更新技術の開



講演会の様子



岡野氏の講演

発と検証」を三月に発刊しました。

また、昨年十月二十二・二十三日には五十周年を記念し、この五十年間の歩みと研究成果について報告する「講演会」及び「現地見学会」を開催しました。

二十二日は王滝村公民館において、約百名の方に参加いただき講演会を開催。「三浦実験林の概要」について説明の後、長年、実験林の調査に携わって頂いている、信州大学農学部岡野哲郎教授から「三浦実験林におけるヒノキ天然更新技術開発の概要」五十年の歩み」について、同じく、国立研究開発法人森林総合研究所の森澤猛研究情報科長より「ヒノキの天然更新を促進させるには」帯状皆伐更新試験を例として」について、それぞれ講演いただきました。二日目の二十三日は、地元の王滝村民を中心に約五十名の参加者とともに「三浦実験林」の現地見学会を実施しました。

現地では試験地の遠望のほか、試験地内にも入っていただき、風倒木の根張りの状況やポドゾル土壌など実際に見ていただきました。「自然にこのような土壌となってしまうのか」「降った雨はどうなるのか」といった質問が出されるなど、厳しい自然条件下での更新の難しさについてご理解いただけたのではないかと思います。

三浦実験林のように広大な規模で五十年余にわたり毎年調査研究が行われている例は、日本はもとより世界でも極めて希と言われております。設定より五十年間、多くの関係者の皆様のご努力とご協力により、長きにわたり調査研究が続けられてきたことに深く感謝の意を表するとともに、引き続き、実験林の調査を実施していきたいと考えています。



現地見学会



森澤氏より現地の説明



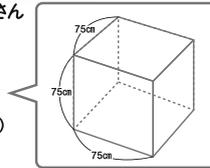
平成28年度 長野県木育推進事業

第39回

あれも木、これも木。どんなのつくる？ 長野県児童・生徒木工工作コンクール

作品募集

- 応募資格／長野県下の小学校、中学校、盲・ろう・養護学校の児童生徒の皆さん
- 作品基準／
 - ①テーマ：自由(ただし、木材を主材料として利用加工した総作品であること)
 - ②大きさ：1辺が75cm以内(タテ・ヨコ・高さ全て75cm以内)
 - ③その他：搬入搬出において、壊れにくいもの(破損した場合の責任は負いません)出来るだけ県産材を活用してください。



※作品の出品については各学校で受付けております。その他不明点は下記までご連絡頂くか、ホームページまで!

みんなので
応募しよう!

[締切]
平成28年
9月9日(金)
[審査]
平成28年
10月5日(水)

- 主催：長野県木材青壮年団体連合会
- 共催：長野県／中部森林管理局／(公財)長野県緑の基金／長野県県産材振興対策協議会／長野県木材協同組合連合会
- 後援：長野県教育委員会／(一財)長野県建築住宅センター／長野県森林組合連合会／NHK長野放送局／SBC信越放送／NBS長野放送／TSBテレビ信州／abn長野朝日放送／長野エフエム放送／新建新聞社／長野県民新聞社

■お問合せ先

●長野県木材青壮年団体連合会 事務局(県木連内)

〒380-8567 長野市岡田町 30-16 TEL:026-226-1471 FAX:026-228-0580

ホームページはこちら → [もくせいれん](#)

検索

9月の市売りのご案内

本部事務所(製品)	荻原事務所(原木)	坂下事務所(原木)	国有林土場等活用委託販売市売日
特選材市 9月24日(土)	9月27日(火)	9月 7日(水) 開設18周年記念市 9月26日(月)	9月13日(火) <small>入札物件紹介・入札結果はホームページに掲載 ※本市売は、これまでの木曾地区国有林の公売に代わるものです。</small>

※入札参加資格・入札条件等詳細については下記へお問い合わせください。



木曾官材市売協同組合

ホームページアドレス <http://www.kisokan.com>

- 荻原事務所：長野県木曾郡上松町荻原字中島1431-1 ☎0264-52-2483(代) FAX0264-52-4885
- やぶ原土場：長野県木曾郡木祖村荻原844-1 ☎0264-24-0085(代) FAX0264-24-0086
- 坂下事務所：岐阜県中津川市坂下133-1 ☎0573-75-3178(代) FAX0573-75-3172

理事長 野村 弘

本部事務所：長野県木曾郡上松町正島町2-45
☎0264-52-2480 FAX0264-52-2324

地域づくりのシンポジウム 協同組合シンポジウム

平成28年7月19日(火)、協同組合シンポジウム(主催・長野県協同組合連絡会)がJ Aアクティールホール(長野市)において開催されました。

本シンポジウムは国際協同組合デー(7月の第一土曜日)に合わせて開催されており、長野県内の各種協同組合の組合員や役員を対象に、協同組合運動の根幹と地域づくりのしくりをテーマに町ぐるみ・協同組合同士が連携している実践を学び、協同組合の事業と運動が果たす役割と存在の意味を捉え直し今日的課題を明らかにすることを目的としています。

当日は200人を超える方々が参加する中、開会あいさつを雨宮勇J A長野中央会・各連合会会長が、主催者あいさつを高橋精一長野県労働金庫理事長が行った後、基調講演と実践報告が行われました。

基調講演は、和歌山県農業法人株式会社「秋津野」代表取締役・

玉井常貴氏より『「秋津野」ふるさと未来への挑戦』と題し、地域の資源をさまざまに活用し、地域力を活性化しながら持続可能な地域づくりのため様々な取り組みをしていることについて講演していただきました。



玉井氏による基調講演

上秋津野地区では、平成初頭から、隣接する町村、田辺市街地から住民が流入し農村地域でありながら人口が急激に増加しました。地域コミュニティが変化していく中、幅広い合意形成を図りながらより活発な村づくりへの取組のた

めに、平成6年に、地区内の町内会、老人会、PTA、消防団、JA等全組織・団体を網羅した地域づくり塾『秋津野塾』が結成されました。地域で取り組む事業や活動は、秋津野塾の企画委員会で企画・立案され、必要に応じて各団体の代表が出席する全体会議で検討し承認する、スピーディーな決断ができる体制になり、住民が問題を幅広く共有し一人一人が「地域住民」の自覚を深め「地域力」を高めていくことにつながりました。

平成11年には農家だけの出資でなく、幅広く住民からの出資で秋津野直売所『きてら』が誕生しました。柑橘や梅等の特産を箱詰めにした『きてら』セットを中心に売り上げを伸ばし、加工場「俺ん家ジュース倶楽部」、お菓子体験工房「バレンシア畑」、そして宿泊施設・農家レストラン「みかん畑」を備えた交流施設「秋津野ガールテン」がオープンしました。地域とガールテンが一緒になって農家民泊、外国人との交流、収穫体験、市民農園など様々な事業を展開させ、秋津野型グリーンツーリズムとして地域力と地域資源の活用で

地域を活性化させ、ソーシャルビジネスとしても取り組みました。何かをすることによって人材が生まれてくる。地域が人を作り、人が地域をつくる。何かチャンスが来たら引き当て一つずつ積み上げていき、様々な組織と連携して地域のつながりを創っていくことで地域づくりへとつながっていくと述べられました。

続いて行われた実践報告は、『おたがいさまの心』で創る明日の世界』と題し、地域つながりセンター事務局・清原晴美氏により島根県松江市の有償たすけあいシステム「おたがいさま」の活動について報告していただきました。



清原氏による実践報告

現在の日本の社会は、少子高齢

**第94回国際協同組合デー
第46回長野県協同組合連絡会宣言**

世界人口は73億人を超え、人口増加に伴う食糧危機が懸念されるとともに、資源、エネルギー消費は増大し地球温暖化等環境問題は異常気象や生態系に大きな影響を及ぼしつつあります。また、世界の富が一部の国や人々に偏り、発展途上国を中心に必要な医療や教育も受けられない状況が拡大しています。

国内では、4月に発生した熊本地震によって多数の方が被災されました。また、5年経過した東日本大震災においては、今もなお、多くの人々が仮設住宅での生活を余儀なくされています。我々、協同組合はこれまで培ってきたネットワークや事業の特性を活かし、さまざまな支援に取り組んでいます。食料・日用品などの緊急物資の提供や避難所での炊き出しなどの食糧支援、医師・看護師の派遣、移動購買車による買い物支援、災害復興ボランティアの派遣など被災地に寄り添った活動を行い、改めて協同の力が見直されています。

また、TPP交渉は、農業のみならず、県民の「食」と「いのち」と「くらし」に大きな影響を及ぼし、国家の主権をも揺るがしかねない極めて重大な問題であるにもかかわらず、情報開示がないまま交渉が進められ昨年10月大筋合意に至りました。

協同組合は地域社会に根ざし、人々による助け合いを促進することによって生活を安定させ、地域社会を活性化する役割を果たしています。人と人が支え合い、支え合うことによって生きがいを感じられる社会を目指しています。今こそ美しい田園風景、伝統ある故郷、助け合いの地域文化など世界に誇るこうした長野県の財産をしっかりと守らなくてはなりません。

県内の農協、生協、漁協、森林組合、労金、労協に集う私たちは、よりよい社会創りにむけ、協同組合の理解を広げ、教育・人づくりをし、それらを強化するための協同組合連携が重要であることを再認識する必要があります。

私たちは、第94回国際協同組合デー長野県集会を契機に「協同組合による持続可能な地域社会づくりに取り組もう」をスローガンに、相互理解を深め、協同組合運動を拡大していくことをここに宣言します。

2016年7月

長野県協同組合連絡会(NJC)

NJC: Nagano Prefectural Joint Committee Co-operative movement

化が進み住民同士が支え合う地域機能が低下し弱い立場の人が社会から孤立してしまうことが起こり始めています。平成14年に出雲から始まった「おたがいさま」は困った人と役立ちたい人をつなぎ、つ

ながって交わることから生まれる、温かさ、安心、自分らしき等を大切に、共に生き、より安心して住むことができる地域社会を目指しており、現在、島根県内に6カ所の拠点があります。

実践報告の後、「第94回国際協同組合デー第46回長野県協同組合連絡会宣言」が県森連島田係長により朗読された後、採択されシンポジウムの閉会が行われました。



県森連島田係長による国際協同組合デー宣言の朗読

地域つながりセンターは、平成26年、地域の諸団体(社協、農協、生協など)が連携して地域づくり活動(事業)を推進し、「おたがいさま」活動を全県に広げていくこと等を目的に設立され、今後、「おたがいさま」だけでは抱えきれないことについては公的な専門職、地域の諸活動などと連携を取りながら「安心して暮らせる地域」について一緒に話し合える関係を創っていきたくと述べられました。

長野県林務部との懇談会開催される

7月8日(金)長野県林業センター(長野市)において長野県林務部との懇談会が、長野県林務部、各森林組合、県森連、県森林組合長会により開催されました。

県森連・藤原忠彦代表理事会長、長野県・池田秀幸林務部長の挨拶の後、森林づくり推進課等より平成28年度信州の森づくり事業(造林事業)の予算の執行について、森林組合系統からの要望・提案事項への回答を含めたご説明、県森連より「平成29年度予算林業施策・予算に関する要望」、「森林環境税(仮称)の早期実現等森林吸収源対策に必要な安定財源の確保について(案)」の説明があり、活発な意見交換が行われました。

良好な長野県林政・長野県林業のために有意義な懇談会になりました。



懇談会の様子

長野県の木材市況

平成二十八年八月十日発行 長野の林業通巻三一九号

発行 長野の林業編集委員会

事務局 長野市岡田町長野県林業センター内
 (社)長野県林業センター
 (社)長野県林業普及協会

電話〇二六(二二七)五〇一五 Eメール Nagarin-center1@qa3.so-net.ne.jp
 電話〇二六(二二六)五六二〇 Eメール rinfukyoo@giiga.ocn.ne.jp

第976回 市売市況表

「山の日」制定記念市(平成28年8月2日実施)

長野県森林組合連合会 伊那木材センター

Tel 0265-72-2684 Fax 0265-76-8759

〇 強気配 - 保合 △ 弱気配

樹種	長さ(m)	規格	末口(cm)	高値(円/㎡)	中値(円/㎡)	気配	備考
ひのき	3.0	直	18~20	13,500	9,000	-	並材値段横這い。 伐採予定の方、 連絡ください。
		直	18~22	14,000	10,000	-	
	4.0	込	20~28	14,800	11,000	-	
		元	28~36	25,000	16,000	-	
栗	4.0	直	18~22	23,000	13,000	-	直材に引き合いあり。
		直	18	12,000	5,000	-	4.0m×18cm 直材は真っ直ぐで、カビ、ヤニ、大節は タマです。 材不足しています。出材お 願い致します。
からまつ	4.0	込	14~16	8,000	4,000	-	材不足しています。出材お 願い致します。
		込	20上	10,000	5,000	-	
すぎ	3.0	直	20上	6,600	4,000	-	3.0m・4.0m 共に価格弱気 配、伐採予定 の方連絡くだ さい。
		元	30上	12,600	7,000	-	
	4.0	曲	14~18	6,000	5,000	-	
曲		20上	8,000	6,000	-		

出品量1,200㎡ 販売量1,190㎡ 落札率99% 買い方 36社

「山の日」制定記念市らしいひのきが多量に出品されて応札が活発な市になりました。梅雨が明けて材木の搬入が混み合う時期になりますので、降ろし場所の指示に協力をお願いします。また、定期的に木材の皮が剥がれやすくなっています、伐採には注意して出品してください。

出材には合法認定事業者の登録をお願いするとともに、出材時にはその都度合法認定番号および伐採地と伐採箇所を詳しく記載した納品書の提出をお願いします。

お盆休みは8月13日(土)から8月16日(火)までとなります。

第978回 市売市況表

「山の日」制定記念市(平成28年8月1日実施)

長野県森林組合連合会 中信木材センター

Tel 0263-77-2347 Fax 77-2349

〇 強気配 - 保合 △ 弱気配

樹種	長さ(m)	規格	末口(cm)	高値(円/㎡)	中値(円/㎡)	気配	備考
すぎ	3.0	直	16~18	12,000	9,000	-	3.0m×14~18cm柱 取り引合いありま す。20cm上は4.0m 造材してください。
		直	30~48	16,000	11,000	-	
	6.0	元	60	26,500			
ひのき	3.0	直	20上	16,000	13,000	-	並材値段横這い。
		直	20~28	18,000	14,000	-	
からまつ	4.0	込	6~13	10,000	8,000	-	材不足してい ます。ご出品 お願いいたし ます。
		直	14~18	10,000	8,000	-	
		直	20上	13,000	12,000	-	
		曲	14~18	8,000	5,000	-	
あかまつ	4.0	込	18~24	12,000	8,000	-	需要期過ぎ価 格低迷。
		込	26上	13,000	11,000	-	
くま	4.0	込	18~34	35,000	13,000	〇	広葉樹、応札 活発ご出品下 さい。
		く	2.0~4.0	込	16~50	77,000	
くま	4.0	込	24~36	36,000	15,000	〇	
		く					

出品量1,670㎡ 販売量1,626㎡ 落札率97% 買い方45社

クリ・クミ他広葉樹の良材に高値がつき「山の日」制定記念市らしく盛況な市売となりました。今後も期待したいところです。

尚、この時期は材が傷みやすいので早めの出材をお願いするとともに、定期的に剥皮が多くなってきておりますので、測尺(延べ寸等)に気をつけて造材をお願いします。

当連合会は合法木材に取り組んでおります。合法木材供給事業者の認定を取得し、出荷時には合法的に伐採された木材であることとコメントと伐採現場名および合法木材認定番号が記載された納品書の提出をお願いします。

又、8月6日(土)は当センターイベント開催、8月12日(金)は補修工事のためパイオマス材の受入ができませんのでご了承ください。

盆休みは8月13日(土)から16日(火)までとなります。

第1009回【「山の日」制定記念市】市況表

(平成28年8月3日実施)

長野県森林組合連合会 北信木材センター

Tel 026-295-5546 Fax 026-295-5547

〇 強気配 - 保合 △ 弱気配

樹種	長さ(m)	規格	末口(cm)	高値(円/㎡)	中値(円/㎡)	気配	備考	
すぎ	3.0	直	16~18	13,000	9,000	〇	柱材需要あり。直造材で お願いします。	
		直	20上	13,000	10,000	-		
		込	8~13	5,500	4,500	〇		需要あり。出品願います。
		込	14~20	12,500	9,500	〇		出品願います。
	4.0	直	22~28	13,500	10,000	〇	出品願います。	
		直	30上	16,000	10,000	-	直造材で出品願います。	
		曲	14~18	6,000	4,000	-		
		曲	20上	11,000	7,000	-		
からまつ	3.0	直	30上	18,000	12,000	-	伐採前にご相談ください。	
		込	9~13	9,500	6,000	-		
	4.0	直	14~18	11,000	8,000	-		細物直造材を心がけて下さい。 直造材をお願いします。
		込	6~13	11,000	6,000	〇		
ひのき	3.0	直	14~18	12,500	9,000	〇	需要あり。直造材を心がけて下さい。 需要あり。積極的に出品願います。	
		直	20上	18,000	11,500	〇		
	4.0	直	14~18	5,100	5,000	-		
		曲	20上	12,500	10,000	-		
ひのき	3.0	直	16~18	15,000	-	-	伐採前にご相談ください。	
		直	20上	16,500	-	-		
	4.0	直	16~18	20,000	-	-		
		直	20~28	20,000	-	-		
黒柿	1.4	直	34	251,000		-	1本単価	
		直	78	300,000		-	1本単価	
カツラ	4.8	直	62	177,000		-	1本単価	

出品量3,305㎡ 販売量3,259㎡ 落札率98.6% 買い方48社

今回は、梅雨も明け夏らしい暑さの中、「山の日」制定記念市ということで多くのお客様にご来場いただき、盛大な市売りとすることができました。これもひとえに出荷者の皆様のご協力のおかげと感謝しております。

市況といたしまして、スギ・カラマツともに、細物・中目に需要が集中しておりますので、引き続き出荷をお願いします。太材・長材については、伐採前にご相談をお願いします。

また、広葉樹・アカマツについても、需要が出てきておりますので、秋口をめどに出荷いただけるよう準備をお願いします。

なお、定期的に剥皮が多くなっておりまして、測尺(延べ寸等)に気をつけて造材をお願いします。

【お願い】合法認定事業者の登録をお願いするとともに、出荷時にはその都度必ず「合法認定番号及び「合法木材である」コメントを記載した内容の」納品書の提出をお願いします。

第477回 木材共販市況表

(平成28年7月22日実施)

JForest

出品量1,650㎡・買い方16社・落札率92.0% 飯伊森林組合木材共販所

樹種	長さ(m)	規格	末口(cm)	高値(円)	平均値(円)	平均石値(円)	備考	
ひのき	2.0	直	18~32	12,000	8,000	2,240		
			14	9,000	8,000	2,240		
	3.0	元直	16	17,500	13,500	3,780		
			18~22	24,500	16,000	4,480		
		込	24~28	22,000	15,000	4,200		
			16~22	16,000	14,000	3,920		
		4.0	中込	24~28	15,000	13,500		3,780
				30上	33,600	18,500		5,180
			元直	16~22	24,500	16,500		4,620
				24~28	20,000	15,000		4,200
6.0	中直	30上	38,500	23,500	6,580			
		12~14	9,000	8,000	2,240			
	直	16~22	15,000	13,500	3,780			
		24~28	17,000	1,300	364			
4.0	直	18~22	23,000	19,000	5,320			
		12下	360	300				
すぎ	4.0	込直	16~18	8,500	7,500	2,100		
		込直	20~22	10,500	9,000	2,520		
	3.0	直	24~28	11,500	10,500	2,940		
			30上	13,500	12,000	3,360		
かひつ	3.0	直	18~22	8,000	7,500	2,100		
			24~32	8,000	7,500	2,100		
くま	3.0	直	14~22	5,000	4,500	1,260		
			12~14	5,500	5,000	1,400		
	4.0	込	16	6,000	5,000	1,400		
			18~28	10,000	8,000	2,240		
	くま	直	30上	13,500	9,000	2,520		
			小曲	14~30	5,000	3,500	980	
くま	直	12下	400	300				
		直	18~24	25,000	18,000	5,040		
くま	直	18~24	35,000	23,500	6,580			

総評

ひのき、定期的に出荷量少なく、低質材多く低調、価格は伸びず。

すぎは、出荷量あるが、価格は横ばい。

その他、定期的良材の出荷なく低調。

全体に量、質とも低調。今後に期待します。出荷協力いただきありがとうございました。